

No. 906

波状ストと市民の足

春の賃上げをめぐって24時間ストを2回も行った私鉄総連、異常事態宣言まで出した国鉄のスト。5月14日から20日まで私鉄・国鉄とかわるがわる行なわれた交通ストで首都圏の大混乱となった。

「一日だけならば我々も同じ労働者として組合の味方をしても、こう続けられては……」と同情から怒りに変わっていったあるサラリーマン。「すぐ隣の北千住に行くのに松戸までもっていかれるんですよ。乗り場を駅員に聞いても知らん顔。ほんとに頭にくるッ。」とストレートに怒りを表わす中年の御婦人。

「今日は会社を休みました。ミストミという立派な理由もあるし、骨やすめです」となかばストに賛成? の会社員。労組と経営者がお互いに納得するまで話し合いをするのはいい。しかし、その双方が「市民の声」も同時に聞いてほしいものだ。

文化財保護の裏側

いにしえの平城京奈良。仏教文化の発祥地奈良。数多くの寺社を有し、その保有する重文や仏像は計り知れない。文化財といわれるものの多くが仏教の発達と信仰の中で生まれた。お金では決してあがなえない文化遺産。昭和37年から38年にかけて奈良では重文や仏像が盗まれるという事件が相次いで起きた。届け出のあったものだけでもこれまで一ヵ月平均80件 320点を越すという。

個人的所有欲であろうか。それとも金もうけの手段であろうか。奈良県警察本部は、昭和39年、これら貴重な文化財を守ろうと防犯課に文化財係を設けた。田中さんがその初代係長である。しかし部下はいなくそれ以来一人での苦しい斗いがはじまった。

それまで殆んど何も知らなかった田中さん。お寺を廻り、住職に防犯のアドバイスを行い、そして資料をつくる。毎日、毎日同じ事が繰り返された。

資料をつくるという地道な作業を通して今、ようやくこれら文化財の意義が理解できましたと語る。斑鳩の里に今もかつての栄華を誇るように建つ法隆寺。日本人なら一度は訪れた記憶があるだろう。木造建築では世界で最も古いものとして有名である事は知っていても、そこで私達は何を見たであろうか。そして、聖徳太子が建立したことは知っていても同じく聖徳太子が名も知らぬ他の寺社へ足を運んだことがあるだろうか。

荒れ放題の額安寺もそのひとつである。文化財保護とうたい文句を口にする事はたやすい。しかし、歴史を貫いて流れる精神を日本人が汲みとった時、はじめて、それは実現されるのだろう。